

平成１６年度「知事と女性リーダーとの談話会」開催要領

１ 趣旨

県内の様々な分野で活躍されている女性に集まっていただき、奈良県におけるいろいろな課題や将来像について知事と語り合う。

２ 開催概要

(１) 日 時 : 平成１６年８月３日(火) １４：００～１６：００

* 受付・事前ミーティング １３：３０～

(２) 場 所 : 共済会館 やまと １Ｆ「平城」

奈良市鍋屋町１５ TEL ０７４２－２４－５０２１

(３) 出席者 : 再チャレンジを試みた女性９名

(４) テーマ

「～私たちの再チャレンジ～」

< 設定の趣旨 >

性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」を実現するためには、潜在する女性の新しい発想や多様な能力を生かせるよう、さまざまな分野への女性のチャレンジを支援することが重要である。

特に、子育てや介護等でいったん就業を中断する女性が多い我が国では、社会へ再びチャレンジをしたい女性が「再チャレンジ」をしやすくするような環境整備を進めることが望まれる。

さまざまな分野で再チャレンジを試み、現在活躍する女性に参集いただき、「女性の再チャレンジ支援環境づくり」に向けた課題や方策について語り合っていたく。

３ 進行予定

進 行	内 容	時 間	
開 会		14:00～	1
知 事 挨 拶	意見交換の貴重となるスピーチ	14:01～14:04	3
自己紹介等	参加者の自己紹介	14:04～14:14	10
意 見 交 換	テーマに沿って、全員で意見交換	14:14～15:45	91
写 真 撮 影	記念写真の撮影	15:45～15:55	10
閉 会		～16:00	5

平成16年度「知事と女性リーダーとの談話会」の概要について

このことについて、実施しました概要は下記のとおりです。

記

- 1 日 時 平成16年8月3日(火) 14:00～16:00
- 2 場 所 共済会館やまと(1F「平城」) 奈良市鍋屋町15 TEL0742-24-5021
- 3 テーマ 「～私たちの再チャレンジ～」
- 4 趣 旨 性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」を実現するためには、潜在する女性の新しい発想や多様な能力を生かせるよう、様々な分野への女性のチャレンジを支援することが重要である。

特に、子育てや介護等でいったん就業を中断する女性が多い我が国では、社会へ再びチャレンジをしたい女性が「再チャレンジ」をしやすくするような環境整備を進めることが望まれる。

そこで、様々な分野で再チャレンジを試み、現在活躍する女性に参集いただき、「女性の再チャレンジ支援環境づくり」に向けた課題や方策について語りあっていただく。

- 5 出席者 (敬称略・50音順)
県在住・在勤の再チャレンジを試みた女性9名と知事
- 笠谷 亜紀子(かさに あきこ) 社会保険労務士
- 北島 真理 (きたじま まり) 地域活動(子育て支援)
- 笹岡 美喜子(ささおか みきこ) 農産物生産・販売
- 篠田 美喜子(しのだ みきこ) インテリア・コーディネーター
- 武田 悦美 (たけだ えつみ) 地域活動(環境保全)
- 田澤 由利 (たざわ ゆり) 起業(IT関連事業)
- 近山 寿子 (ちかやま ひさこ) 事務職(一般事務)
- 藤原 博子 (ふじわら ひろこ) 事務職(医療事務)
- 村奈嘉 正美(むらなか まさみ) 地域活動(地域振興)

6 意見交換概要

- 子育て等で就業を中断した女性が再就職するには、「五重苦」がある。
子供の数 地方に住んでいる 夫の転勤 育児の協力者(親)が側にいない
夫の協力がいないこと
- しかし、いろいろ苦勞はあるが、女性もポジティブに考えることにより、逆に「プラス」或いは「メリット(乗り越えた)」になった事例。
「プラス転換した例としての意見」
 - ・子供が多いこと→苦勞もあるが逆に「幸せ」も多い。
 - ・地方→ITを活用することで、就業期間中のスキルを活かした働き方を可能にするという発想を実現できる。
 - ・夫の転勤→自分のやりたいことが中断され、それが寄り道になったけれども、結果として、それがよい方向に繋がり、現在の活動の幅を広げることにつながっている。
 - ・育児に対する親の協力が得られない→近所同士の良好な信頼関係があれば、お互いに協力し合い乗り切れる。
 - ・夫の協力がいない→自分に甘えず、責任を持ち、努力する妻(母親)の姿をみせることにより、家族(夫・子供など)は自然と協力してくれるようになる。子供に良い影響を与え、「家族愛」が深まる。

- 女性の再チャレンジには、自分や家族の「心」の準備、保育などの条件整備が必要。
- 子育てが一段落した後、再チャレンジを考える女性が多いが、まず何をしたらよいのかわからない女性が多い。何かの“きっかけ”をつくることで、可能性が広がる。
- 女性の再チャレンジ（再就職）活動には、年齢制限の壁があり、それを乗り越えるためには、資格取得も一つの方策。
- 企業では、フレックスタイムの導入やワークシェアリング（正社員でも短時間労働を可能にする）など、多様な就業を可能にする環境整備が必要。
- 県内には、女性の再チャレンジのモデルとなる女性がたくさんいる。そういった事例を情報提供することが、女性の際チャレンジの“きっかけづくり”になる。
- 技術や能力を持つ女性が多いが、なかなか機会がないのが実情。女性があきらめなくてもよいように、再チャレンジで活躍している女性の事例集や情報の一元化等の機会提供の場づくり等の支援環境整備が必要。

報道等公表用名簿（敬称略・50音順）

氏名	ふりがな	再チャレンジの状況
笠谷 亜紀子	かさにあきこ	社会保険労務士
北島 真理	きたじままり	地域活動（子育て支援）
笹岡 美喜子	ささおかみきこ	農産物生産・販売
篠田 三起子	しのだみきこ	インテリア・コーディネーター
武田 悦美	たけだえつみ	地域活動（環境保全）
田澤 由利	たざわゆり	起業（IT関連事業）
近山 寿子	ちかやまひさこ	事務職（一般事務）
藤原 博子	ふじわらひろこ	事務職（医療事務）
村奈嘉 正美	むらなかまさみ	地域活動（地域振興）